

ネットムーブ株式会社： タレスの決済用HSMの採用でP2PE認定取得 安心のキャッシュレス決済サービスに取引高急増

サマリ

国内のキャッシュレス決済市場が急拡大するなか、ネットムーブ株式会社(以下、ネットムーブ)が提供するキャッシュレス決済サービス「Spayd(スペイド)」は、同社が提供するプラットフォームの利用端末が数十万台を超え、決済取扱高は5,600億円/年に達する勢いです。

Spaydが多くの企業や店舗で採用される理由は、「Simple, Safety, Speedy」という3つの「S」にあります。Spayd は今では巷で広く利用されているモバイルPOS決済ですが従来型の大型店舗向けのPOSシステムのようにスマホ、タブレットがあれば専用回線を用意する必要がなく、低コストですぐに使えるにも関わらず、セキュリティがきわめて強固であることが支持されるポイントです。そして、セキュリティレベルの高さは、ネットムーブがPCI P2PE認定を日本で初めて取得したプロバイダであることで明瞭に証明されています。

PCI P2PEは、最初にカードを読み取るカードリーダーデバイスから復号を行う決済処理センターに至るまで、カードデータをエンド・トゥ・エンドで暗号化することで、店舗およびネットワーク上での「クレジットカード情報の非保持・非通過」を実現するセキュリティレベルの高いキャッシュレス基準です。

Spaydサービスにおけるエンド・トゥ・エンドの確実な暗号化と復号化は、タレスの決済用HSM「SafeNet Luna Payment HSM」が担っています。

Spaydは、店舗での対面決済のほか、EC物販・コンテンツ販売のサブスクリプションなどさまざまな販売形態を提供する。決済端末も2種類用意。左が、スマートフォンと組み合わせて利用するMIURA Systems端末。右が、Androidを搭載した PAX Technologyオールインワン端末。

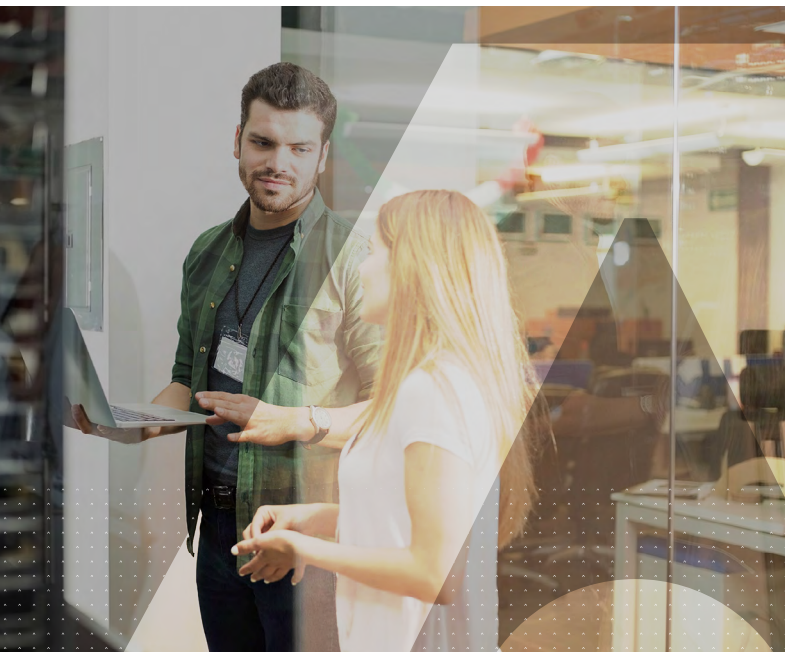


netmove

選定のポイント

ネットムーブは、決済サービスとセキュリティサービスを事業の2本柱として、2000年に設立された会社です。2013年、新規のキャッシュレス決済サービス開発に取り組むにあたって、セキュリティの追求を重要な要件であると考え、クレジットカード業界のセキュリティ標準化協議団体「PCI SSC」が定めるセキュリティスタンダードへの準拠を開発目標の1つに掲げました。

まず、モバイル決済サービスに使用するmPOS端末として、PCI PTS認定取得で、しかも「Simple, Safety, Speedy」に最も長けている製品をグローバルで探し、英国MIURA Systemsの端末を選定しました。さらに、MIURA Systems端末が、暗号鍵のライフサイクル管理を行う専用ハードウェアであるHSM(ハードウェアセキュリティモジュール)利用を前提とした端末であることから、次ステップとしてHSMの機種選定を行いました。



Luna Payment HSMを選んだのは、PCI SSCが定めるHSMのセキュリティ基準「PCI HSM」に完全準拠しているため「PCI P2PE」取得も容易になること、そして、柔軟なサポート体制を提供できたからです。開発企画当初において、Luna Payment HSMはMIURA Systems端末への暗号鍵インジェクション機能に対応していませんでしたが、ネットムーブの要請にタレスは応えました。英国、日本など世界4カ所の開発チームが協力し合ってAPIを短期開発し、さらに日本拠点が強力な導入支援サービスを提供。2014年、ネットムーブは予定どおりに新しいキャッシュレス決済サービスを開始することができました。

ソリューション

Luna Payment HSMをコア・コンポーネントとして組み込んだSpaydサービスは、2017年、日本で初めてPCI P2PEプロバイダ認定を取得しました。ネットムーブは決済サービスプロバイダのフロントランナーとして内外から注目され、ビジネスを有利に進める足がかりを得たのです。

Spaydは、決済トランザクションごとに異なる暗号鍵を使用するDUKPTプロトコルを採用しています。Luna Payment HSMとDUKPTインターフェースを提供するとともに、各鍵を安全に登録・保護し、安定した「暗号鍵ライフサイクル・マネジメント」を続けています。

さらに2023年4～10月にかけて、Luna Payment HSMは、決済用HSMの最新機種「Thales payShield 10K」へ移行する予定です。使い方は従来と同様に、DUKPTを使ったクレジットカード決済データの通信暗号化です。処理スピード・安定性などが一段と進化した新機種を中核に据えて、3年おきに行われる次のP2EE監査へ準備万端で臨み、認定を更新したいと考えています。

キャッシュレス決済市場は、モバイル化と、サービスのコンポーネント化というトレンドによって、サービス形態がさらに多様化しつつあります。多様化・細分化すればするほど、トータルセキュリティへのニーズは高まります。Luna Payment HSMおよび後継のThales payShield 10Kでハイレベルなセキュリティ基盤を確立したネットムーブは、今後のサービス拡大にも積極的に取り組んでいこうとしています。

「決済サービスは社会インフラの一部であり、持続するサービスであることが強く求められます。そのサービスを支えるコア・コンポーネントを提供するベンダーにも、持続可能な企業であっていただきたい。PCI HSMを取得し、維持・更新していくことは大きな企業体力と負担を要しますが、タレスはその責任を長年にわたってきちんと担ってこられました。持続する企業の特質を備えたタレスとは、ビジネスパートナーとして共に手を携えて、Win-Winを目指していきたいと思っています。」

— ネットムーブ株式会社 執行役員
ペイメント事業部長 高田 理己氏

課題

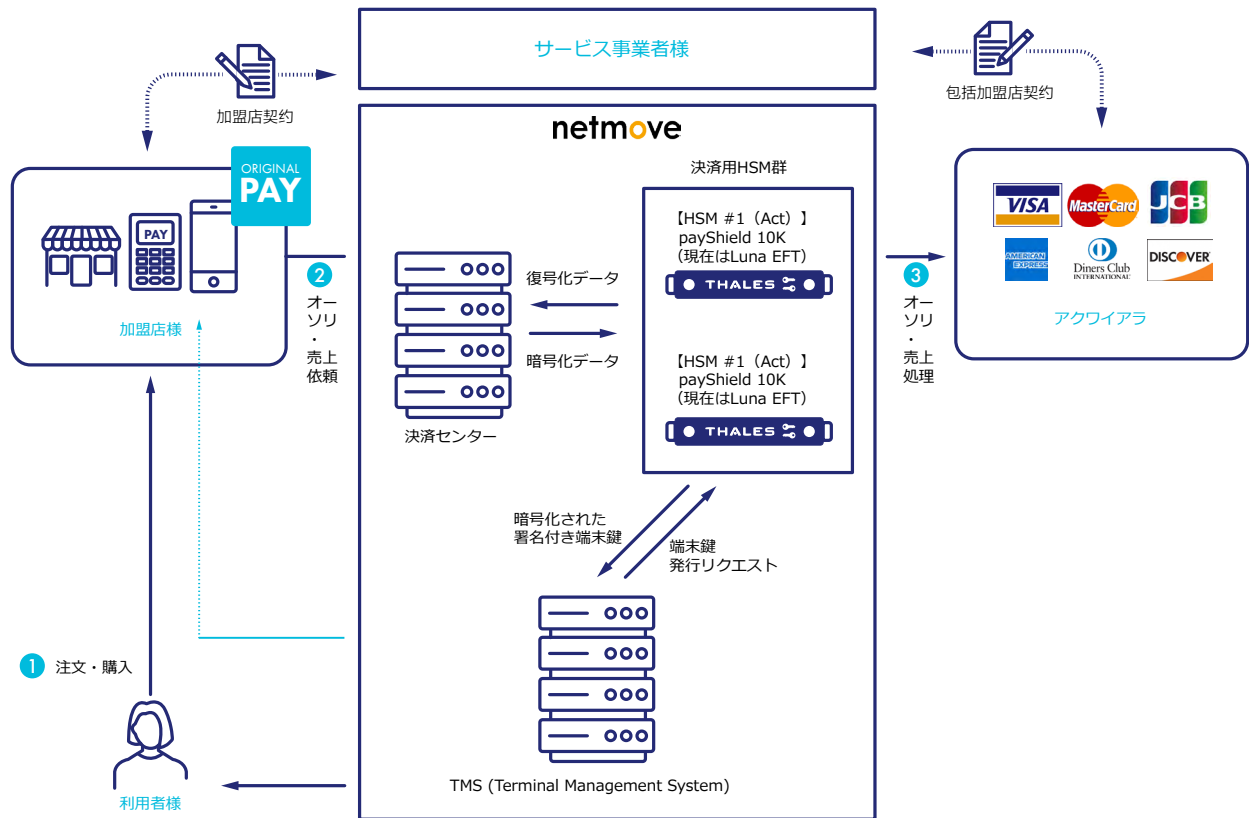
- 新しいキャッシュレス決済サービスの開発にあたり、セキュリティ強化が重要なビジネス要件であると認識
- PCI DSS、さらにPCI P2PEへの準拠を開発目標の1つに掲げる

ソリューション

- まず、モバイル決済サービスに使用するmPOS端末として、英国MIURA Systemsの端末を選定。MIURA Systems端末が、HSM利用を大前提としていることから、HSMを機種選定した。
- Luna Payment HSMを採用。PCI HSMに完全準拠しており、PCI DSS、PCI P2PE取得も容易になるため

メリット

- Luna Payment HSMとMIURA Systems端末の接続には、タレスがAPIを開発。日本拠点での導入支援サービスと相まって、短期導入を実現できた
- Luna Payment HSMをコア・コンポーネントとしたシステムで、日本で初めてPCI P2PEを取得。決済ソリューションプロバイダのフロントランナーとしての地位を確立した
- ビジネスが順調に拡大し、端末台数が数十万台に急増したが、Luna Payment HSMは十分なキャパシティで、安定した「暗号鍵ライフサイクル・マネジメント」を維持
- 処理スピード、安定性が一段と進化した決済用HSM「Thales payShield 10K」が登場。次回2023年のPCI P2PE監査は、この新製品に移行して臨み、認定を更新する予定
- ビジネスの多様化・細分化にも安心して対応できるセキュリティ基盤を手に入れ、今後のビジネス拡大へ積極的に取り組める



タレスのHSM (ハードウェアセキュリティモジュール) について

タレスのHSM(ハードウェアセキュリティモジュール)は、暗号鍵を常にハードウェア内に保存することにより、最高レベルのセキュリティを実現します。侵入に強く耐タンパ性を備えたFIPS認証取得済みの同アプライアンスの鍵が決して外れることがないため、安全な暗号基盤を提供することができます。すべての暗号化操作はHSM内で行われるため、強力なアクセス制御により、機密性の高い暗号化マテリアルへの非承認ユーザーのアクセスを防ぎます。また、タレスでは、安全なHSMをできる限り簡単に導入できるように運用を実施しています。タレス クリプト コマンドセンターと統合されており、暗号リソースのパーティショニング、レポート作成、監視を迅速かつ容易に行うことができます。

タレスについて

皆様がプライバシー保護を信頼して任せている相手は、そのデータを保護するためにタレスに頼っています。データセキュリティに関しては、組織が直面する決定的な局面は次々と増え続けています。その局面が暗号化戦略の策定、クラウドへの移行、コンプライアンス要件の順守のいずれであっても、デジタルトランスフォーメーションを保護するためにタレスに頼ることができます。

決断の瞬間のための、確実なテクノロジー。

記載されている会社名、製品名およびロゴは、各社の商標または登録商標です。



お問い合わせ先

cpl.jp.sales@thalesgroup.com すべてのオフィスの
所在地と連絡先情報につきましては、
cpl.thalesgroup.com/ja/contact-usをご覧ください。

> cpl.thalesgroup.com <

